

次期「滋賀県農業・水産業基本計画」の とりまとめの方向性について

滋賀県農政水産部

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



- I 滋賀県農業・水産業基本計画について
- II 次期 基本計画の策定について
- III 地域別意見交換会について
- IV アンケート結果について
- V とりまとめの方向性(案)へのご意見について



I 滋賀県農業・水産業基本計画について

II 次期 基本計画の策定について

III 地域別意見交換会について

IV アンケート結果について

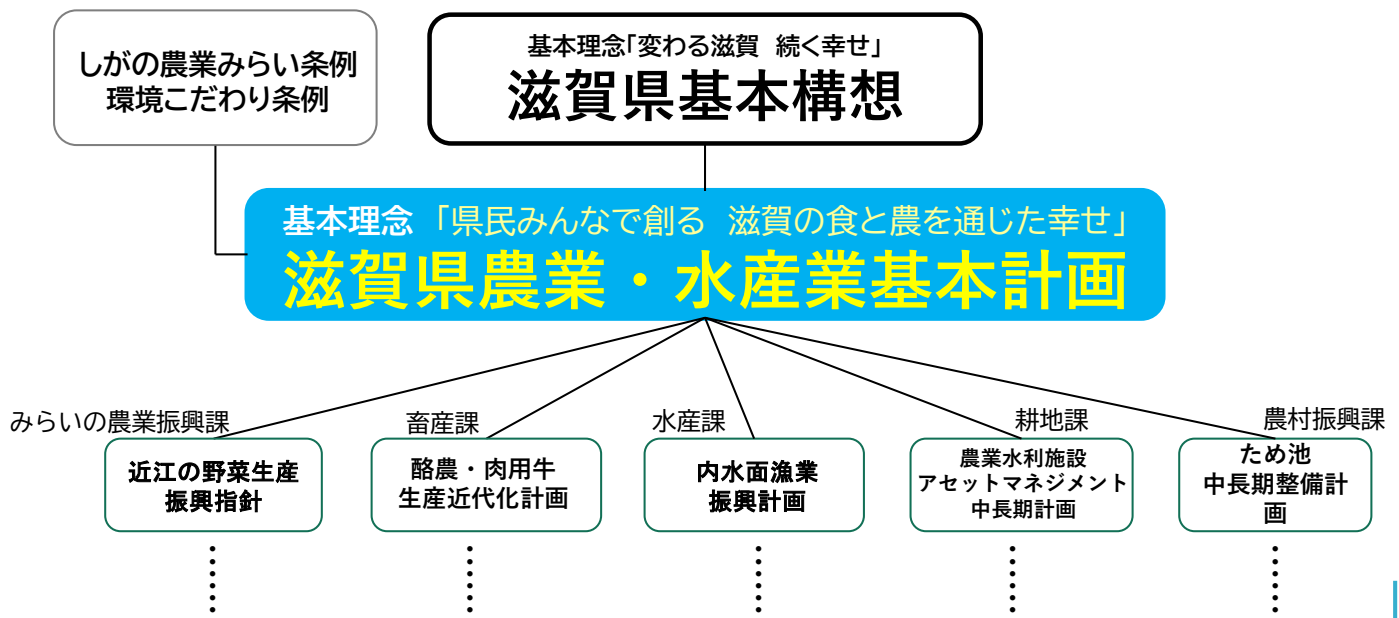
V とりまとめの方向性(案)へのご意見について

3

1 基本計画の位置づけと構成



- 10年後の本県農業・水産業の目指す姿を描く
- 県民と基本理念を共有する
- 本県農業・水産業の中期的な展開方向を示す



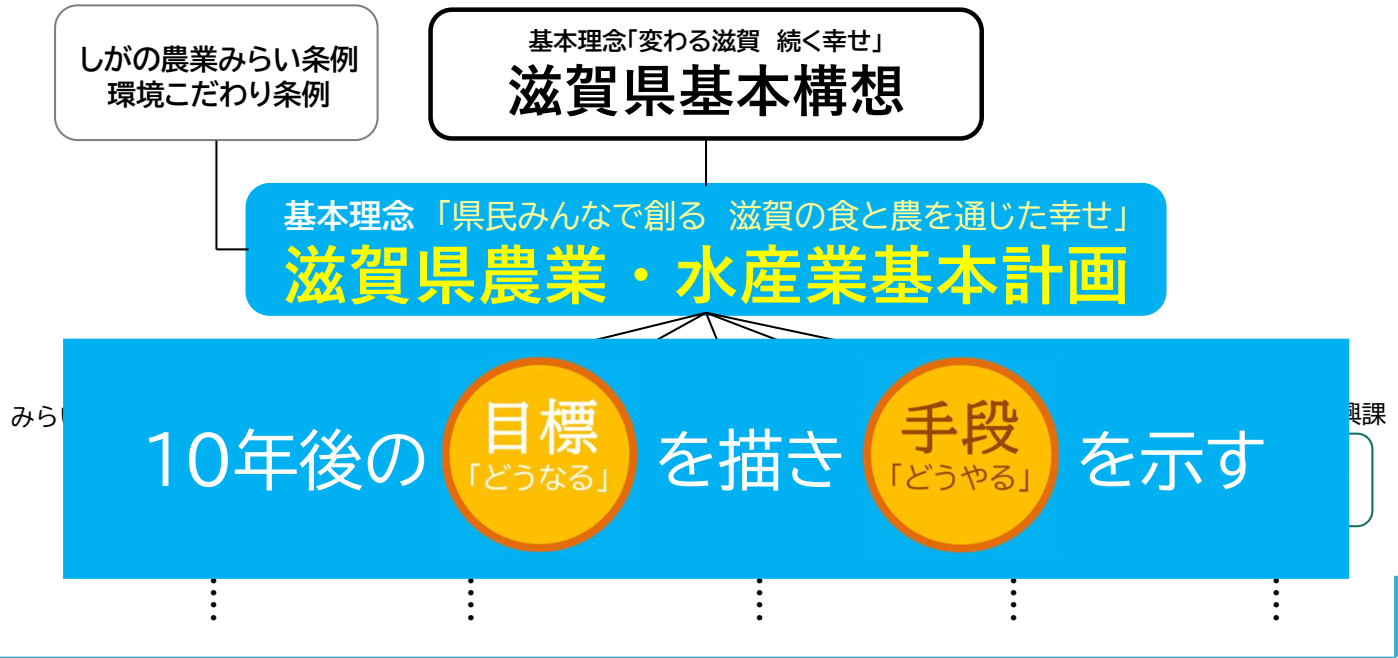
4

1 基本計画の位置づけと構成

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



- 10年後の本県農業・水産業の目指す姿を描く
- 県民と基本理念を共有する
- 本県農業・水産業の中期的な展開方向を示す



2 基本計画と現場の関わり（具体例）

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



経済

目指す姿

経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

目標
「どうなる」

手段
「どうやる」

政策

需要の変化への確かな対応と新たな需要の開拓や販路拡大に向け、農地・農業技術等をフル活用する

施策

需要の開拓につながる滋賀の特色ある農産物の生産と新品種の育成

事業

- ☐ 滋賀の力強い水田農業確立推進事業
- ☐ 「きらみずき」みんなでブランド化推進プロジェクト
- ☐ 健康志向に対応したオーガニック茶生産地育成事業
- ☐ みんなで育てる「みおしずく」ブランド化事業



滋賀県農業・水産業基本計画

県民みんなで創る
滋賀の
「食と農」を通じた
「幸せ」



幸せのカタチ
10年後の
わたしたちへ

7



基本理念
県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



8



手段 「どうやる」

共通視点「人」

農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

人・1 新規就農者・新規漁業就業者等を確保する

- ①本県農業の中核となる農業者の確保
- ②本県農業・農村を支える多様な人材の確保
- ③新規漁業就業者の確保

人・2 滋賀の農業・水産業のファンを拡大する

- ①学校教育を通じた食育・体験学習等の推進による子ども・若者世代のファン拡大
- ②県産農畜水産物の魅力発信によるファン拡大
- ③都市と農村の交流、農業・漁業体験等によるファン拡大

人・3 県産農畜水産物を積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす

- ①県産農畜水産物を取り扱う食品関連事業者の拡大促進

人・4 農業・農作業の持つ多面的機能を活かした共生社会をつくる

- ①「新たな農福連携」の推進

具体的施策

視点「環境」

琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する

環境・1 農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立する

- ①環境に配慮した農業の推進
- ②農業用水対策の推進
- ③農業系廃プラスチック削減対策の推進
- ④農作物の鳥獣被害を少なくする取組の推進【社会・2から再掲】

環境・2 琵琶湖を中心とする環境の保全再生を進め、健全な循環のもと水産資源を回復させる

- ①漁場環境改善の取組の推進

環境・3 気候変動による自然災害等のリスクに対応する

- ①気候変動への対応（緩和策および適応策）
- ②植物防疫対策
- ③農業用ダム・ため池等の防災減災対策
- ④家畜伝染病の発生予防およびまん延防止対策
- ⑤水産業へのリスク軽減対策
- ⑥流通リスクへの対策

具体的施策

視点「経済」

経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

経済・1 農業・水産業がより魅力ある職業になる

- ①人材の育成
- ②経営力の向上
- ③産地の強化
- ④水産業における経営力の向上

経済・2 需要の変化への確かな対応と新たな需要の開拓や販路拡大に向け、農地・農業技術等をフル活用する

- ①需要の変化に対応する農産物の生産力の向上
- ②新たな作物や栽培技術等の積極的な導入
- ③需要の開拓につながる滋賀の特色ある農産物の生産と新品種の育成
- ④農業水利施設や農地等の農業生産基盤の整備【社会・1から再掲】

経済・3 近江牛をはじめとした畜産物を持続可能な形で安定生産する

- ①食肉・鶏卵・牛乳等の畜産物の持続可能な安定生産へ向けた取組
- ②家畜ふん堆肥の有機資源としての有効活用と耕運連携による飼料づくり

経済・4 儲かる漁業を実現し、琵琶湖漁業を継続する

- ①水産資源の管理と持続的利用の推進
- ③「滋賀の幸」の付加価値の向上

経済・5 近江米、近江牛、近江の野菜、近江の茶、湖魚等の「滋賀の幸」のブランド力を高め、消費を拡大する

- ②地産地消の強化と首都圏や海外における販路の開拓・拡大
- ③「滋賀の幸」の魅力発信やPR活動を通じた販売促進・消費拡大

具体的施策

視点「社会」

豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ

社会・1 農業水利施設や農地等の農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継ぐ

- ①農業水利施設や農地等の農業生産基盤の整備【経済・2に再掲】
- ②安心して住み続けられる農山漁村の整備

社会・2 集落の力と多様な主体との連携・協働により農山漁村の持つ多面的価値を次世代に引き継ぐ

- ③集落の話し合いに基づく将来ビジョンの策定と体制整備
- ③多様な主体が連携・協働した地域資源の保全・活用
- ④農作物の鳥獣被害を少なくする取組の推進【環境・1に再掲】
- ⑤漁村の多面的価値の次世代への継承

具体的施策



3 令和4年度末の進捗状況

(1) 進捗状況の概要

成果指標の評価は、年次目標の達成率に応じてA～Eの5段階とし、達成率が80%に達していれば概ね順調（A評価）とする。令和4年度の結果は下表のとおりとなった。

評価	A	B	C	D	E	集計中	計
項目数	28	6	1	1	4	2	42
割合	67%	14%	2%	2%	10%	5%	100%

○達成率の計算方法

目標が策定時より数値の増加を目指すもの（実績－現状値）／（目標－現状値）×100

目標が策定時より数値の減少を目指すもの（基準値－実績）／（基準値－目標）×100

※No19、No38については、達成率＝（実績値／目標値）×100 としている

○達成率に応じた5段階評価

A評価：達成率 80%以上

B評価：達成率 80%未満～60%以上

C評価：達成率 60%未満～40%以上

D評価：達成率 40%未満～20%以上

E評価：達成率 20%未満



I 滋賀県農業・水産業基本計画について

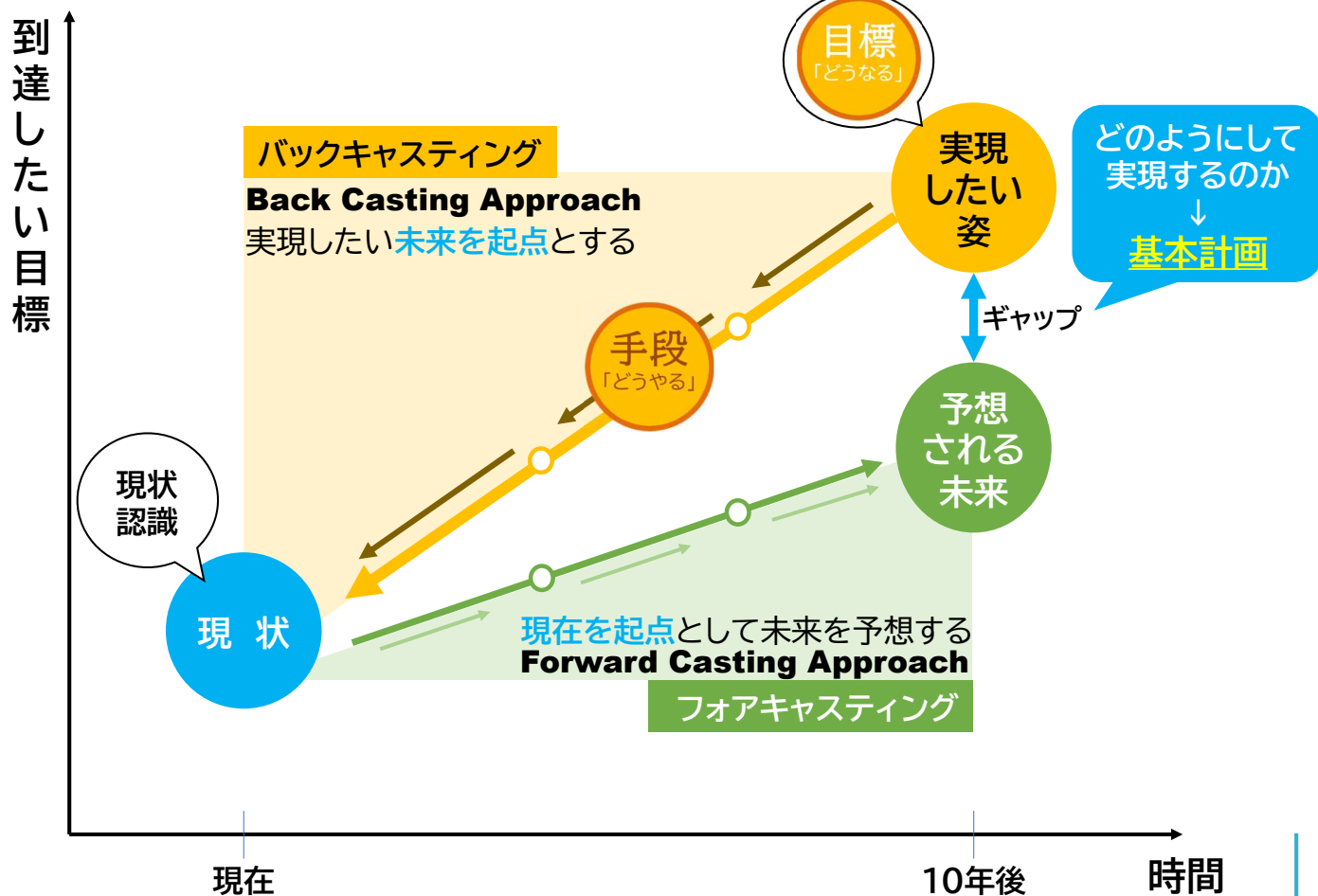
II 次期 基本計画の策定について

III 地域別意見交換会について

IV アンケート結果について

V とりまとめの方向性(案)へのご意見について

4 計画策定の考え方



5 次期「滋賀県農業・水産業基本計画」の改定について(R5～6年度 前半版)

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



1・2月
(チーム会議)

【到達点】・人・経済・社会・環境の各視点で「目指す姿」(案)ができる。(目標設定)
・今後、滋賀県農業・水産業に及ぼす社会情勢等の変化の影響について共有できる。(課題抽出)

2・3月
(チーム会議)

【到達点】・今後、滋賀県農業・水産業に及ぼす社会情勢等の変化の影響について共有できる。(課題抽出)
・今後、滋賀県農業・水産業に及ぼす社会情勢等の変化の影響に対して必要とされる取組(素案)ができる。(課題への対応)

3月
(チーム会議)

【到達点】 今後、滋賀県農業・水産業に及ぼす社会情勢等の変化の影響に対して必要とされる取組(案)ができる。(課題への対応)

4月
(チーム会議)

【到達点】 意見交換会に向け、次期基本計画策定の基礎となる、とりまとめの方向性(策定チーム案)のうち、「第2章 目指す2035年の姿(目指す姿)」と「第3章 政策の方向性」の案ができる。

5～6月

○とりまとめの方向性(策定チーム案)を踏まえて意見交換会を実施

○生産者・消費者・流通事業者を対象としたアンケートを実施

【到達点】 意見交換会、アンケートにより盛り込むべき重要なポイントやキーワード等を収集する

7月
(チーム会議)

【到達点】 意見交換会、アンケート内容を反映して、現状と想定される社会情勢の変化、必要とされる取組、目指す姿が整理された「とりまとめの方向性(案)」ができる

7月
(第1回審議会)

【到達点】 県として整理した「とりまとめの方向性(案)」を第1回審議会で諮り、骨子素案の作成へ

とりまとめの方向性

13

5 次期「滋賀県農業・水産業基本計画」の改定手順について(R6年度 後半版)

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



8・9月
(県政経営会議等)

○ 8/30 県政経営幹事会議 次期基本計画の骨子素案について(協議)
○ 9/ 3 県政経営会議 次期基本計画の骨子素案について(協議)

9月
(会派説明)

○ 9月中旬 次期基本計画の骨子素案について(協議)

10月
(常任委員会)

○ 10/7 骨子素案を常任委員会で諮り、**第2回の審議会**に進める。

10月
(第2回審議会)

○ 10月中旬
【到達点】 骨子素案を第2回審議会で諮り、骨子案の作成に進めることができる。

骨子素案の検討

11月
(県政経営会議等)

○ 11/15 県政経営幹事会議 次期基本計画の骨子案について(協議)
○ 11/19 県政経営会議 次期基本計画の骨子案について(協議)

12月
(常任委員会)

○ 12/13 骨子案を常任委員会で諮り、**第3回の審議会**に進める。

12月
(第3回審議会)

○ 12月下旬
【到達点】 骨子案を第3回審議会で諮り、計画素案の作成に進めることができる。

骨子案の検討

1～3月
(意見交換)
(計画素案作成)

○ 骨子案の内容を踏まえて、意見交換会を実施
○ 計画素案を作成

14



<策定の背景> 現計画が令和7年度で計画期間の終期。近年の状況の変化を踏まえ、次期計画を策定する。
<性格> 滋賀県基本構想を上位計画とし、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す。県民と基本理念を共有する。SDGsの達成に貢献し、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」を次世代に継承する。
<計画期間> 10年後(2035年)の目指す姿を実現するために実践する令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間。

第1章 基本理念

(現状・課題と取組の方向性)

- 人** 国内での生産年齢人口の減少に伴い、各産業分野における人材の確保に向けた賃金が上昇しており、今後、農業・水産業における担い手の確保・育成がより重要である。
- 経済** 世界の食料需要の増加に伴い、生産資材や食料原材料の価格上昇や生産資材・食料原材料の輸入が難しくなる一方で、国内での調理食品の需要増やオーガニック・自然派食品の市場の拡大が見込まれるなど、より多様化するニーズに対応した取組が重要である。
- 社会** 国内での人口減少・少子高齢化は、農山漁村とりわけ中山間地域で顕在化してきている一方で、コロナ禍の影響により始まったテレワークは浸透し、さらに地方移住への関心も高いことを踏まえた取組が重要である。
- 環境** 国内では、これまでに経験したことのない気温上昇、ゲリラ豪雨等が発生し、農業・水産業への影響が生じていることから、温暖化に対応しうる適応策、温室効果ガス発生を削減しうる緩和策の取組をさらに進めることが重要である。

つながり、つづく、しがの農業・水産業 (本日の審議会にて決定)

第2章 目指す2035年の姿

- 人** 農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。
- 経済** 滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。
- 社会** 多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。
- 環境** 気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。

第3章 政策の方向性

目指す姿の視点		政策の方向性	
目指す姿	共通視点 人	(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する (3) 農業・水産業の魅力発信・販路拡大に取り組む	成果指標(KPI) 具体的施策
	視点 経済	(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保する (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進める (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の向上に取り組む	
	視点 社会	(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋賀の農山漁村に関わる人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する	
	視点 環境	(1) 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む (3) 外部環境の変化から生じる自然災害などのリスクに対応する	

第4章 政策の推進方法

- ・県民に対する情報提供 ・分野別計画等による施策の推進
・具体的な手引書等による施策の推進 ・試験研究と普及活動による施策の推進 他

参考資料

- ・2035年における滋賀県農業・水産業に影響を及ぼす社会情勢の変化(データ)
・SDGsのゴール、ターゲットと関連する施策との関連性 他

15

6 現計画策定以降、新たにまたは顕在化した社会情勢の変化

※「滋賀県農業・水産業基本計画」策定チーム員調べ

共通
視点
人

有効求人倍率の上昇
EC市場の拡大
CtoC、BtoB取引の増加
ソーシャルメディアマーケティングの拡大
食品価格の高騰
観光客・外国人の増加
農泊の拡大
輸入資材・食料の入手困難化

視点
社会

テレワークの拡大
移住願望の高まり
モノ重視消費からコト・トキ重視消費への移行
世界の食糧需要の増加
生産資材・輸入食料の入手困難化

視点
環境

海外の農産物生産の不安定化
獣害の種類や生育環境の変化
琵琶湖の水質変化
減農薬・減化学肥料・脱プラへの要求増加

視点
経済

最低賃金の上昇
法人化・雇用増による保険料負担の増加
農業人材派遣・アルバイト数の増加
防除請負経営体の増加
スマート農機の普及
農業資材・肥料の高騰
物流コストの上昇
穀物の国際価格の上昇傾向
輸入資材・食料の入手困難化
電気料金の高騰
食品価格の高騰
低価格な食料の需要増加
観光客の増加
訪日外国人の増加
地域外への農地拡大意向の増加
スマート農業技術の進展
サービス事業体数(JA出資法人)と作業面積の推移
農産物直売所の減少・大型化
経済的理由により十分な食料を入手できない人の増加

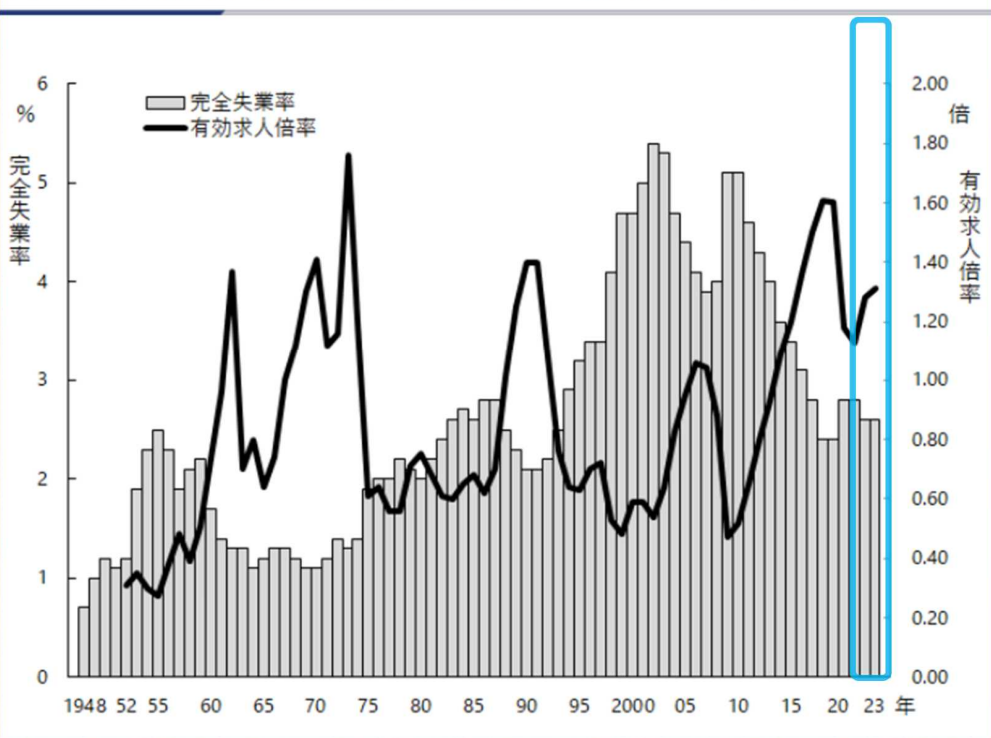
16



人

農業経営体の雇用の変化 ～有効求人倍率の上昇～

図1 完全失業率、有効求人倍率 1948年～2023年 年平均



出典：独立行政法人 労働政策研究・研修機構（2024年4月19日更新）
2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



経済

農業経営体の雇用の変化 ～最低賃金の上昇～

区分 年度	時間額 (円)	引上額 (円)	引上率 (%)	発効日	備考
平成14年度	651	0	0.00	—	改正なし
平成15年度	651	0	0.00	—	改正なし
平成16年度	652	1	0.15	H16.10.1	
平成17年度	657	5	0.77	H17.10.1	
平成18年度	662	5	0.76	H18.10.1	
平成19年度	677	15	2.27	H19.10.25	
平成20年度	691	14	2.07	H20.10.18	
平成21年度	693	2	0.29	H21.10.1	
平成22年度	706	13	1.88	H22.10.21	
平成23年度	709	3	0.42	H23.10.20	
平成24年度	716	7	0.99	H24.10.6	
平成25年度	730	14	1.96	H25.10.25	
平成26年度	746	16	2.19	H26.10.9	
平成27年度	764	18	2.41	H27.10.8	
平成28年度	788	24	3.14	H28.10.6	
平成29年度	813	25	3.17	H29.10.5	
平成30年度	839	26	3.20	H30.10.1	
令和元年度	866	27	3.22	R1.10.3	
令和2年度	868	2	0.23	R2.10.1	
令和3年度	896	28	3.23	R3.10.1	
令和4年度	927	31	3.46	R4.10.6	
令和5年度	967	40	4.31	R5.10.1	

厚生労働省 滋賀県最低賃金改定状況一覧（年度別推移）

2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



経済 物価の高騰 ～農業資材の高騰～

主な農業生産資材の月別価格指数の推移（直近3年間）（令和2年＝100）

図1 農産物価格指数（令和2年＝100）

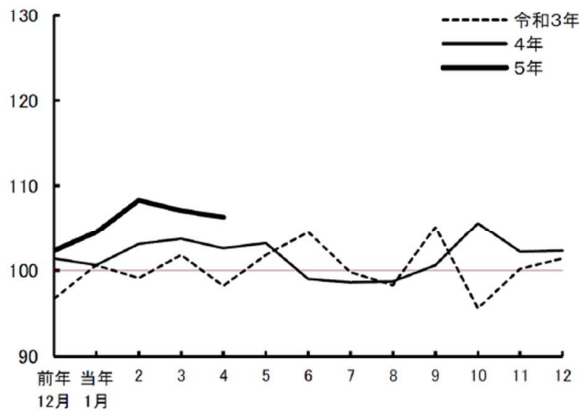
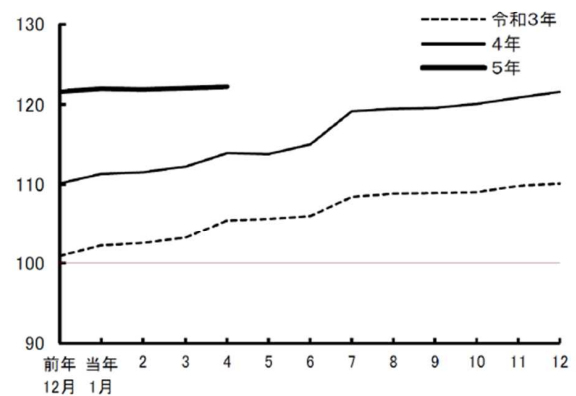


図2 農業生産資材価格指数（令和2年＝100）



出典：農林水産省（農業物価指数（令和5年4月）－令和2年基準－）

2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム

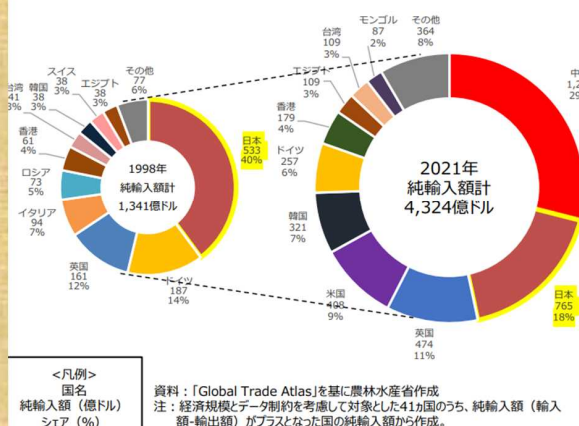


経済 国際的な生産・消費動向の変化 ～輸入資材・食料の入手困難化①～

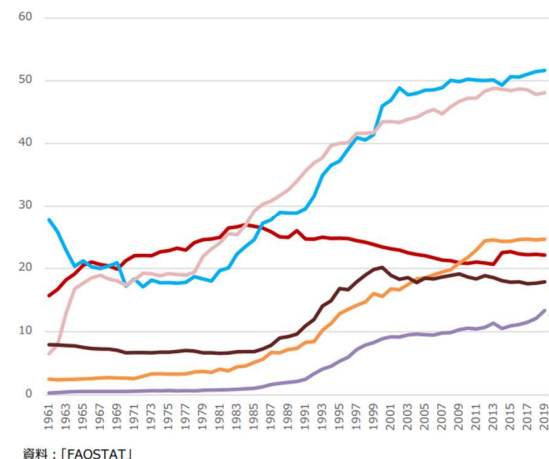
2-5-2. 食料輸入をめぐる情勢の変化（我が国のプライスメイカー的な地位の低下）

- 1998年当時、日本は世界1位の農林水産物の純輸入国であり、プライスメイカー的な地位であったが、近年はその地位が低下。現在は中国が最大の純輸入国となっている。
- 20年前は、食料自給率は低くとも諸外国から購入できていたが、近年、中国が輸入を増やし、プライスメイカー的な地位になりつつある中、日本がそれに左右されることとなる可能性。

○ 農林水産物純輸入額の国別割合



○ 世界の食料消費量に占める中国の割合



出典：農林水産省（令和5年8月 食品産業をめぐる情勢）

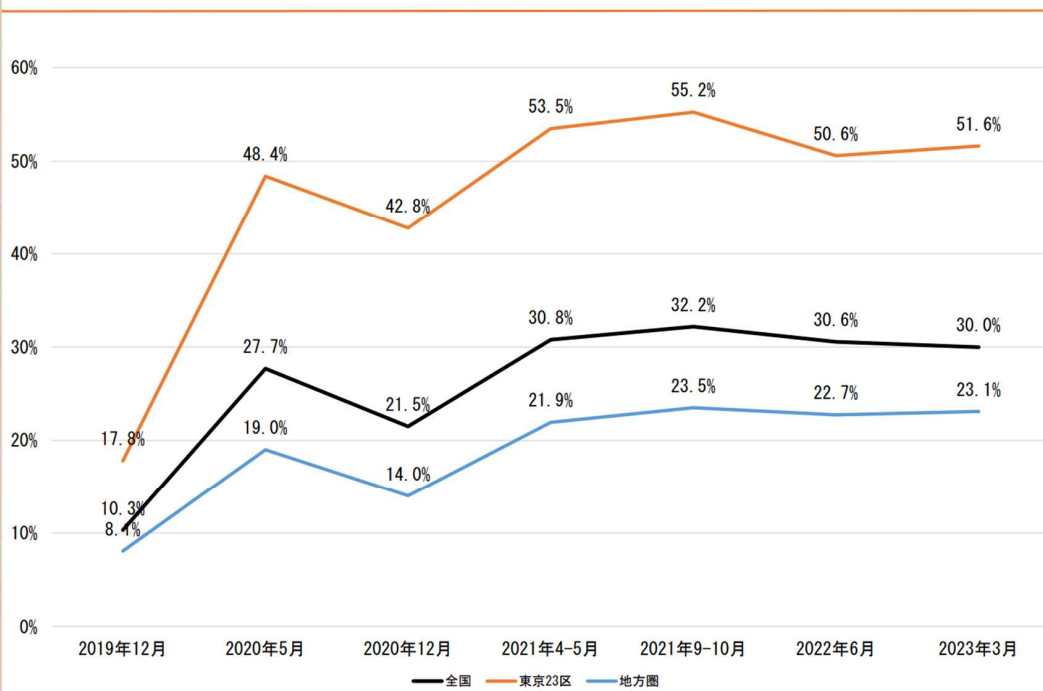
2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



社会

労働環境の変化 ～テレワークの定着①～

【1. 働き方】地域別のテレワーク実施率※（就業者）



※働き方に関する問いに対し、「テレワーク（ほぼ100%）」、「テレワーク中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」、「出勤中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」、「基本的に出勤だが不定期にテレワークを利用」のいずれかに回答した人の割合

出典：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（令和5年4月19日）

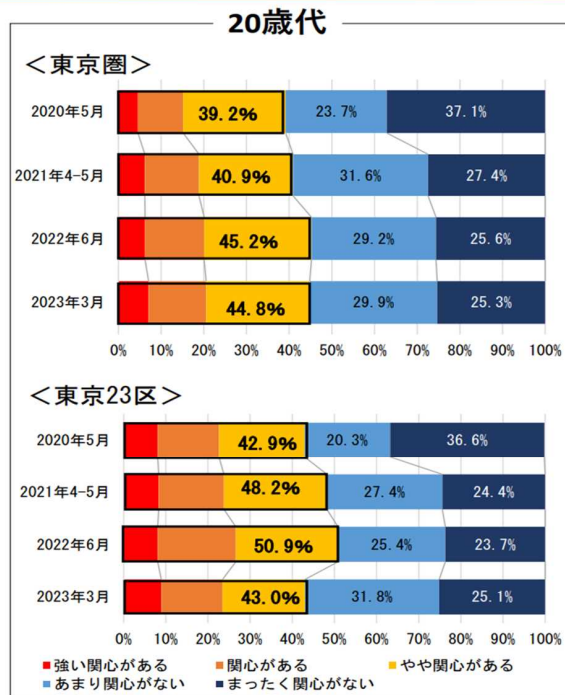
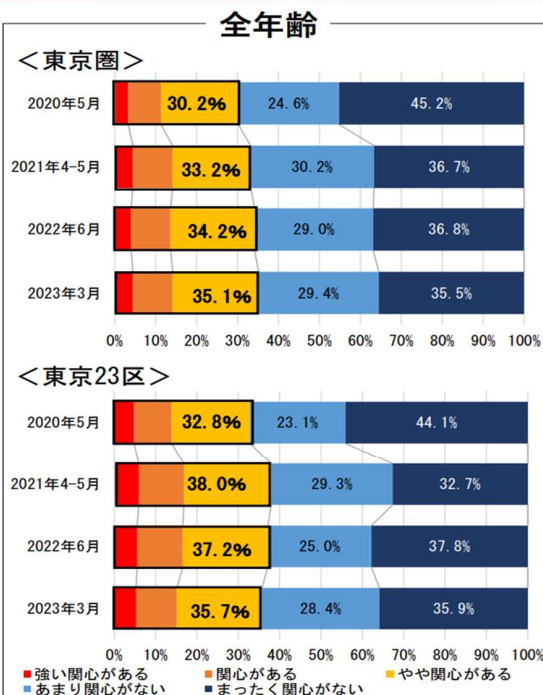
2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



社会

住環境の変化 ～移住願望の高まり～

【3. 地方】地方移住への関心（東京圏在住者）



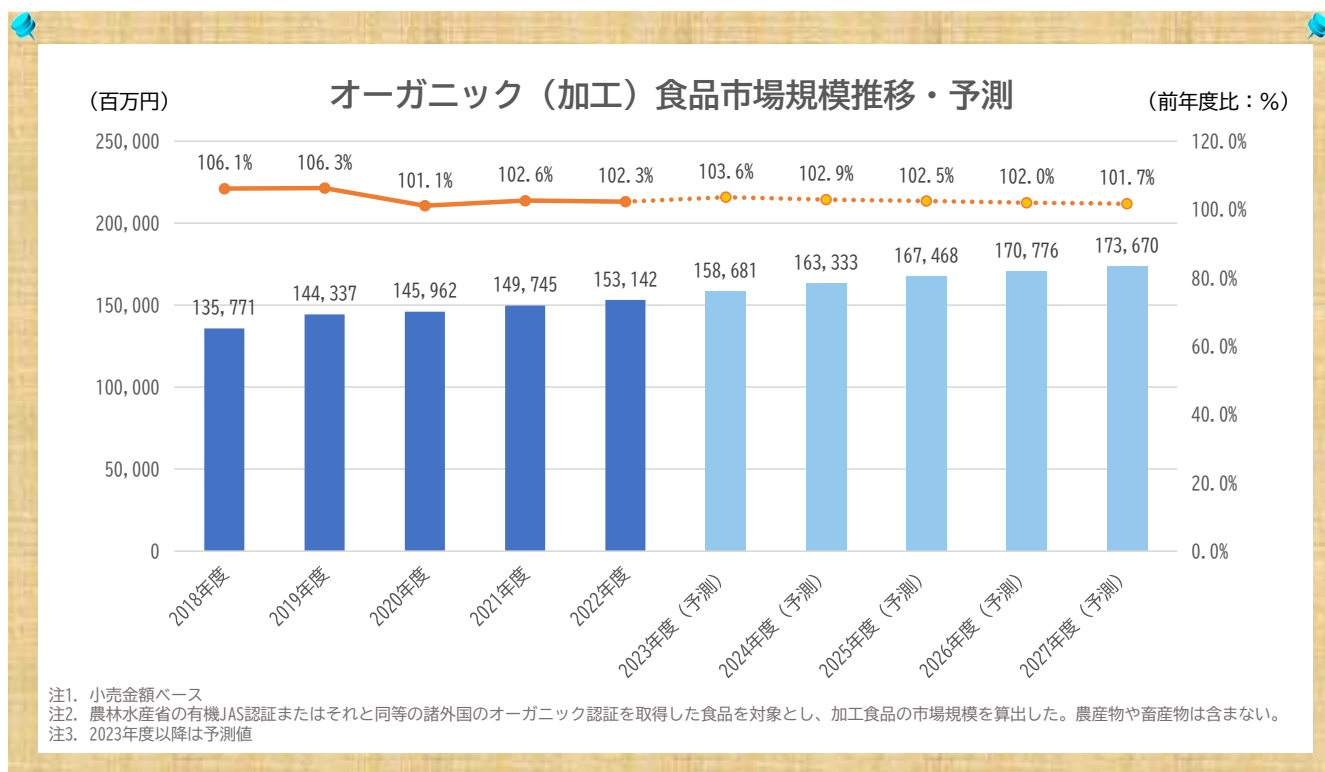
出典：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（令和5年4月19日）

2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



環境

食の変化 ～オーガニックの需要～



出典 株式会社矢野経済研究所「オーガニック・自然派食品の市場調査（2023年）」（2023年9月7日発表）

2023_2024 滋賀県農業・水産業基本計画策定チーム



Ⅰ 滋賀県農業・水産業基本計画について

Ⅱ 次期 基本計画の策定について

Ⅲ 地域別意見交換会について

Ⅳ アンケート結果について

Ⅴ とりまとめの方向性(案)へのご意見について

＜策定の背景＞ 現計画が令和7年度で計画期間の終期。近年の状況の変化を踏まえ、次期計画を策定する。

＜性格＞ 滋賀県基本構想を上位計画とし、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す。県民と基本理念を共有する。SDGsの達成に貢献し、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」を次世代に継承する。

＜計画期間＞ 10年後(2035年)の目指す姿を実現するために実現する令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間。



第1章 基本理念

〇〇…〇〇(地域別意見交換等の意見を踏まえて今後、策定)

(現状・課題と取組の方向性)

国内での生産年齢人口の減少に伴い、各産業分野における人材の確保に向けた資金が上昇しており、今後、農業・水産業における担い手の確保・育成がより重要である。

経済 世界の食料需要の増加に伴い、生産資材や食料原材料の価格上昇や生産資材・食料原材料の輸入が難しくなる一方で、国内での調理食品の需要増やオーガニック・自然派食品の市場の拡大が見込まれるなど、より多様化するニーズに対応した取組が重要である。

社会 国内での人口減少・少子高齢化は、農山漁村とりわけ中山間地域で顕在化してきている一方で、コロナ禍の影響により始まったテレワークは浸透し、さらに地方移住への関心も高いことを踏まえた取組が重要である。

環境 国内では、これまでに経験したことのない気温上昇、ゲリラ豪雨等が発生し、農業・水産業への影響が生じていることから、温暖化に対応する適応策、温室効果ガス発生を削減する緩和策の取組をさらに進めることが重要である。

第2章 目指す2035年の姿

人 農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生
りが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。「どうなる

経済  滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い
営まれている。

社会 多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。

環境 気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。

第3章 政策の方向性

目指す姿の視点	政策の方向性
共通視点 	(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する (3) 農業・水産業の魅力発信・販路拡大に取り組む
視点 経済	(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保する (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進める (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の向上に取り組む
視点 社会	(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋養の農山漁村に関わる人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する
視点 環境	(1) 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む (3) 外部環境の変化から生じる自然災害などのリスクに対応する

手段

「どうやる」

成果指標(アウトカム)

第4章 政策の推進方法

- ・県民に対する情報提供 ・分野別計画等による施策の推進
- ・具体的な手引書等による施策の推進 ・試験研究と普及活動による施策の推進 他

参考資料

- ・2035年における滋賀県農業・水産業に影響を及ぼす社会情勢の変化(データ)
- ・SDGsのゴール、ターゲットと関連する施策との関連性 他

7 地域別意見交換会の結果概要について

県民みんなで創る
滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」



県内6地域(大津・南部、甲賀、東近江、湖東、湖北、高島)で意見交換会を実施

- ・期 日 R6.5.22～5.30
- ・目 的 現場の意見を幅広く聴取し、計画策定における検討材料とする
- ・対 象 生産者、集落活動組織、JA、土地改良団体、流通事業者、市町等
- ・参加者 合計92名





県内6地域(大津・南部、甲賀、東近江、湖東、湖北、高島)で意見交換会を実施

意見の数 合計729

目標
「どうなる」

目標 「どうなる」	第2章 目指す2035年の姿
視点	目指す姿
人	農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに 者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水 関わりを感じている。 農業が 遠くまで （おもしろい） 定年後、農業 後の暮らし （生活） 多岐にわたる （生活） 若人 農業に関 （生活） 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者
経済	滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力 強い農業・水産業が営まれている。 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者
社会	多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する量か な農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、 誰もがその恩恵を認識している。 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者
環境	気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応する とともに、琵琶湖を中心とする環境と調った「琵琶湖シス テム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、 誰もがその取組を誇りに感じている。 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者 関係者

手段
「どうやる」

ワークシート②	第3章 政策の方向性	
目指す姿の 視点	政策の方向性	ご意見等
人	(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・ (3) 県産農畜水産物の魅力発信・販路拡大	スコアアップ、 新規雇用 公営に委託して 雇ってもらう 連携 「人材バンク」 学校と連携 アルバイトの活用 スタッフ不足への 3つの対策 人材不足 (待機)
経済	(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保す (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進め (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の 向上に取り組む	新規就農者 ハイクオリティな 食料(高付加価値) の確保 生産コスト の削減 コストコ に見学旅行 農産物直売場 訪れ予約の 推進も必要 国産品 観光客向け 観光客向け
社会	(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋養の農山漁村に関わる 人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・ 活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する	公営品の利用 農山漁村の 生活圏としての 活用 多量に産出 の活用 観光客向けの 活用 観光客向けの 活用 観光客向けの 活用
環境	(1) 琵琶湖を中心とする自然環境・調和のとれた農業・ 水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進(気候変動に 対応する (3) 外部環境の変化から生じる自然災害など に対応する	公園として おもしろい 活用 公園として おもしろい 活用 公園として おもしろい 活用 公園として おもしろい 活用

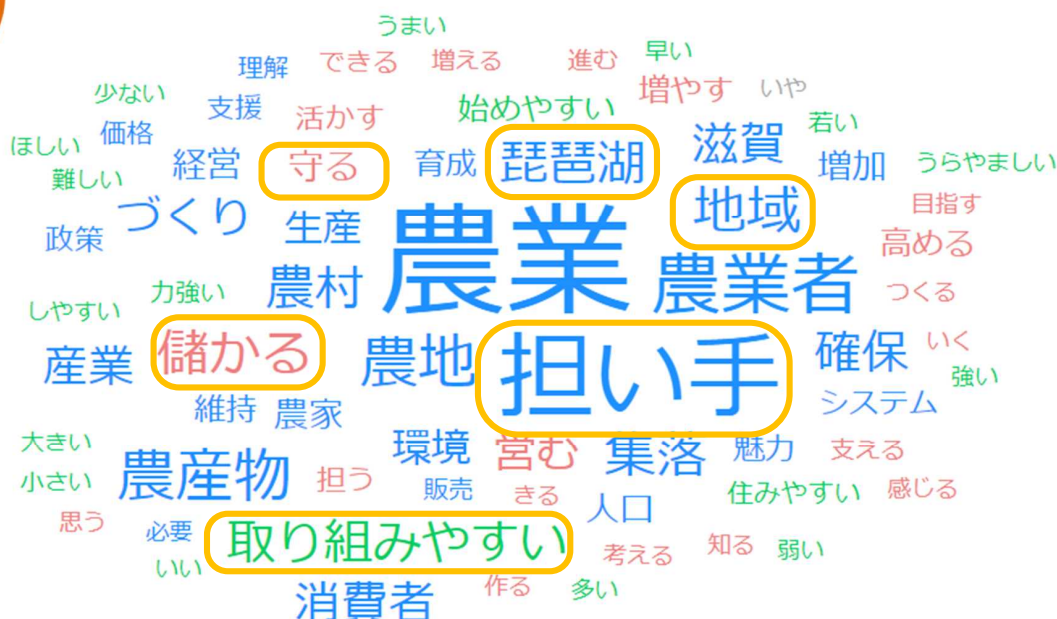
収集した意見・アイデアを分析

27



目標
「どうなる」

目指す姿への意見(ワードクラウド分析)



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

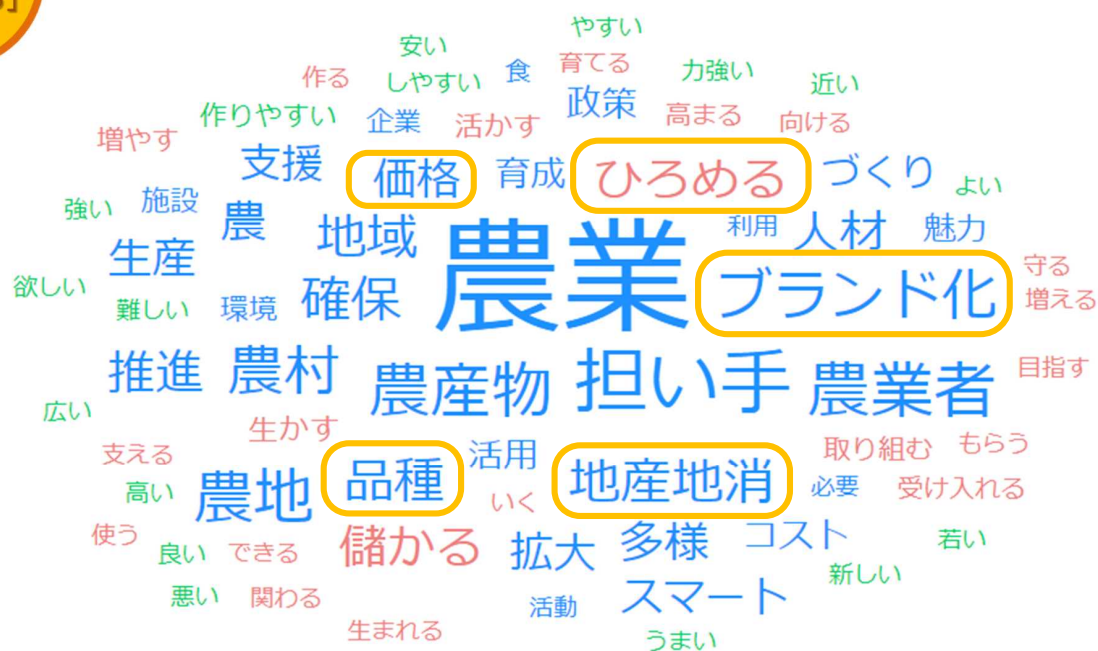
「担い手」「地域」「守る」「儲かる」等の重要度が高い傾向

28



手段
「どうやる」

政策の方向性への意見(ワードクラウド分析)



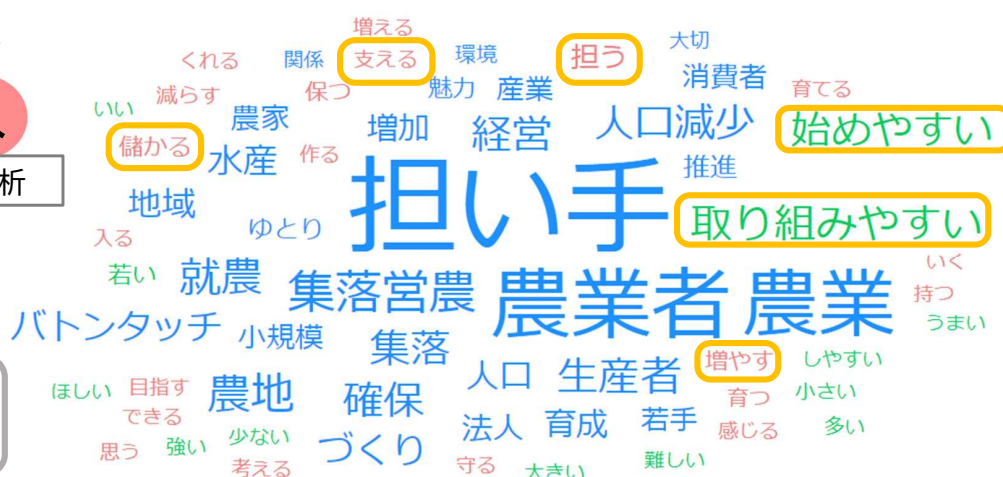
※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

「ブランド化」「ひろめる」「地産地消」「品種」等の重要度が高い傾向



目指す姿
視点：人

ワードクラウド分析



値が高い
=重要な言葉

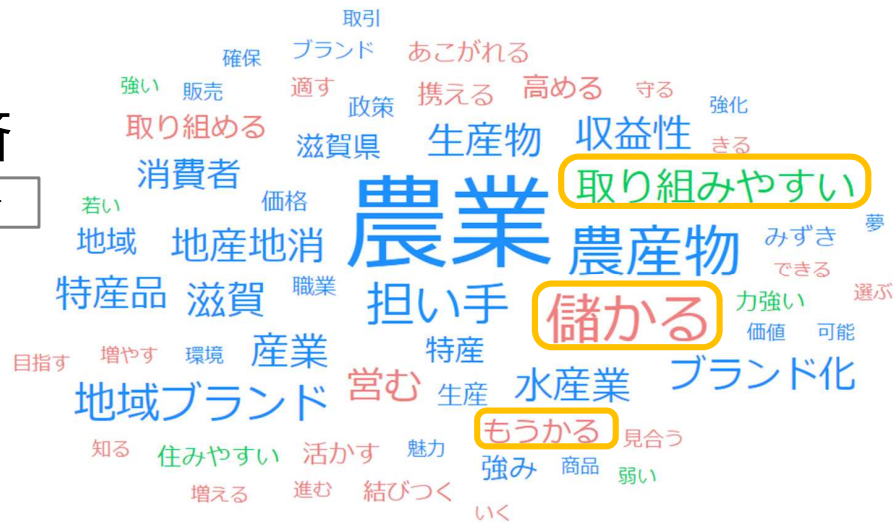
※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
農業	98.22	29	できる	0.05	6	若い	0.75	6
担い手	180.25	25	いく	0.05	5	少ない	0.05	2
確保	10.61	15	増やす	0.48	4	取り組みやすい	4.89	1
地域	6.20	11	感じる	0.09	4	始めやすい	3.12	1
農業者	109.67	10	作る	0.05	4	しやすい	0.07	1
経営	9.94	9	考える	0.03	3	小さい	0.02	1
育成	5.41	9	担う	1.26	2	大きい	0.01	1
魅力	2.34	8	儲かる	0.82	2	うまい	0.01	1
人口	6.47	7	保つ	0.42	2	難しい	0.01	1
づくり	7.29	7	支える	0.31	2	強い	0.00	1
増加	5.01	5	減らす	0.25	2	ほしい	0.00	1
若手	3.81	5	育つ	0.24	2	多い	0.00	1
環境	0.60	5	育てる	0.14	2	いい	0.00	1
関係	0.21	5	守る	0.11	2			
農地	16.80	4	目指す	0.10	2			



目指す姿 視点:経済

ワードクラウド分析



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

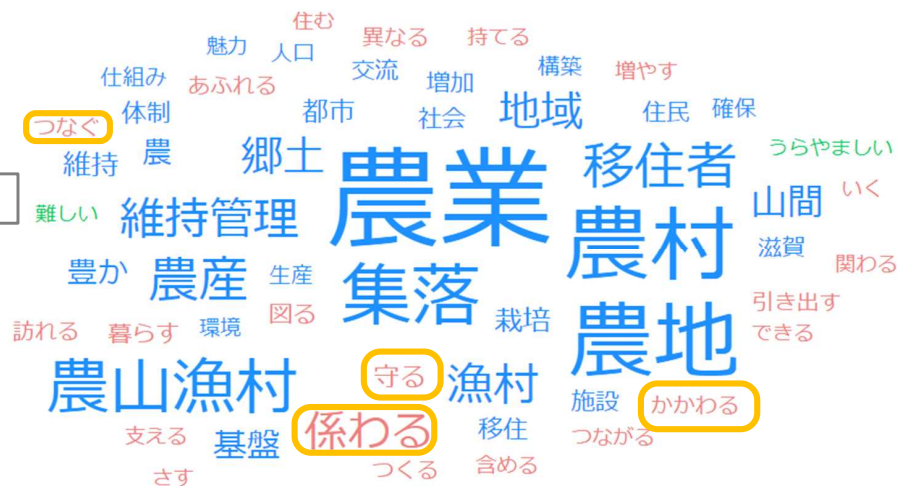
■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
農業	98.22	29	できる	0.15	11	力強い	0.81	2
地域	6.20	11	儲かる	11.79	9	強い	0.02	2
滋賀	12.96	9	高める	1.65	3	取り組みやすい	4.89	1
農産物	37.50	7	活かす	1.42	3	住みやすい	1.09	1
産業	11.84	6	きる	0.30	3	若い	0.02	1
生産	3.91	6	守る	0.25	3	弱い	0.02	1
価格	2.46	6	営む	3.55	2	---	---	---
販売	1.41	6	増やす	0.12	2			
担い手	24.63	5	目指す	0.10	2			
消費者	9.18	5	進む	0.08	2			
強み	5.57	5	選ぶ	0.04	2			
環境	0.60	5	増える	0.03	2			
政策	2.79	4	知る	0.01	2			
職業	1.91	4	いく	0.01	2			
ブランド	1.15	4	もうかる	2.10	1			

31



目指す姿 視点:社会

ワードクラウド分析



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

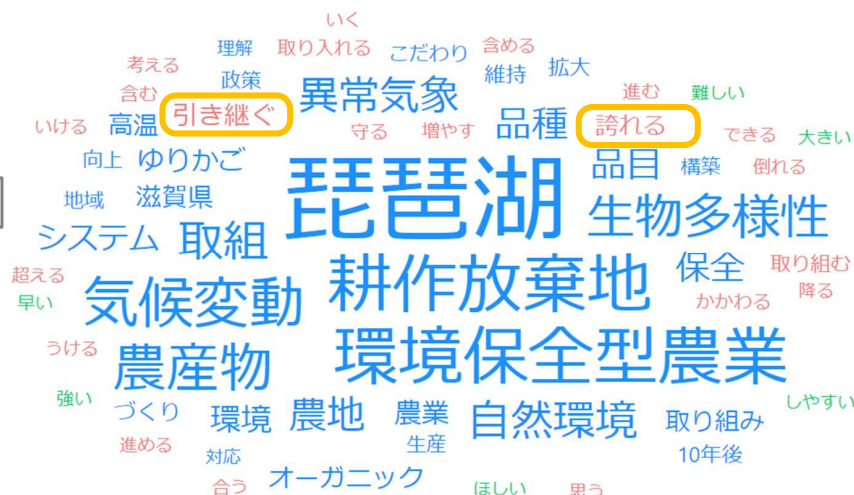
■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
農業	42.19	16	できる	0.05	6	うらやましい	0.09	1
地域	6.20	11	守る	0.68	5	難しい	0.01	1
農村	28.74	6	つくる	0.27	3			
農地	28.56	6	いく	0.02	3			
集落	20.63	6	暮らす	0.32	2			
豊か	3.01	5	増やす	0.12	2			
維持	2.21	5	住む	0.07	2			
社会	1.10	5	係わる	2.58	1			
移住者	11.44	3	図る	0.40	1			
基盤	4.07	3	つなぐ	0.28	1			
都市	1.93	3	引き出す	0.25	1			
移住	1.47	3	あふれる	0.24	1			
体制	1.31	3	かかわる	0.21	1			
施設	1.05	3	異なる	0.19	1			
交流	0.90	3	訪れる	0.16	1			

32



目指す姿 視点:環境

ワードクラウド分析



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
環境	4.42	14	できる	0.05	6	強い	0.02	2
琵琶湖	28.83	11	守る	0.25	3	しやすい	0.07	1
システム	4.40	11	進む	0.19	3	大きい	0.01	1
維持	1.45	4	いく	0.02	3	難しい	0.01	1
地域	0.93	4	引き継ぐ	0.93	2	ほしい	0.00	1
対応	0.28	4	含む	0.22	2	早い	0.00	1
気候変動	13.46	3	増やす	0.12	2			
農産物	12.54	3	誇れる	0.75	1			
取組	9.36	3	取り組む	0.28	1			
異常気象	7.55	3	かわる	0.21	1			
品種	6.22	3	取り入れる	0.20	1			
農業	2.95	3	うける	0.09	1			
拡大	1.29	3	倒れる	0.03	1			
構築	1.11	3	含める	0.03	1			
生産	1.09	3	進める	0.03	1			



I 滋賀県農業・水産業基本計画について

II 次期 基本計画の策定について

III 地域別意見交換会について

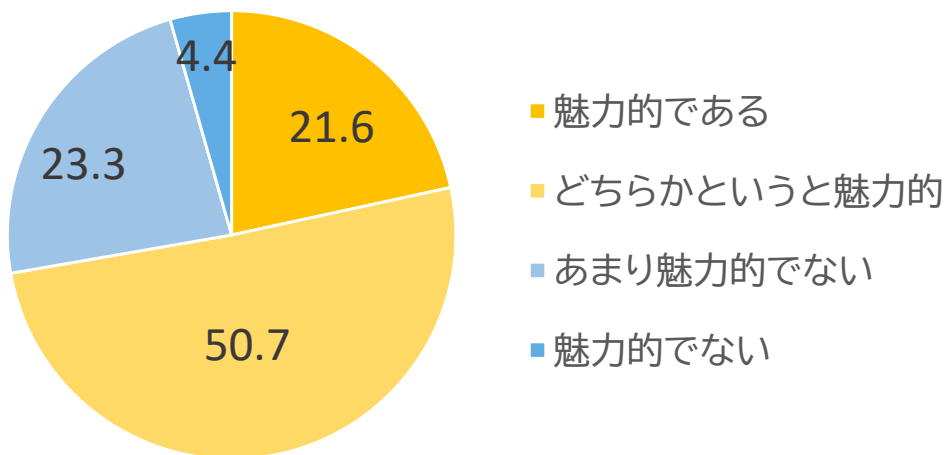
IV アンケート結果について

V とりまとめの方向性(案)へのご意見について



県立の農業系高校(4校)に通う高校生1,197名を対象に、職業としての農業に関するアンケート調査を実施した結果、995名(83.1%)から回答を得る

Q. 職業の選択肢として農業の魅力はどの程度ですか

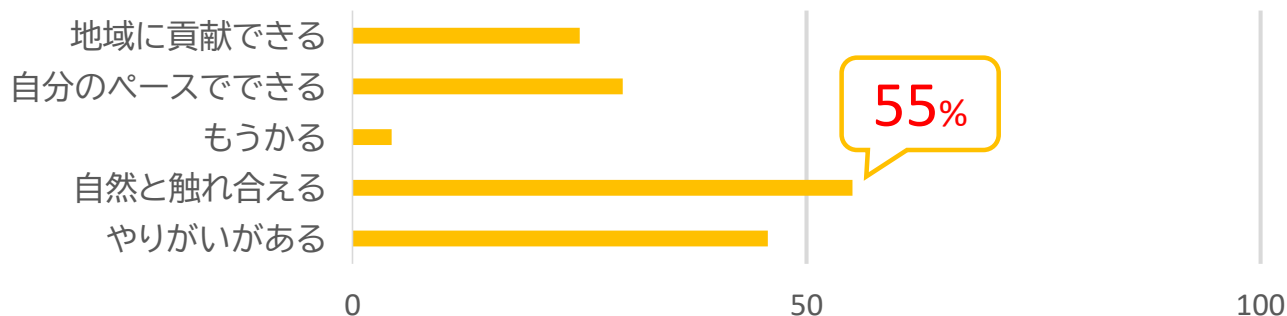


農業に魅力を感じる生徒が72%を占める

35



Q. 農業が魅力的な理由は何ですか(複数選択) 719名



Q. 農業が魅力的でない理由は何ですか(複数選択) 276名



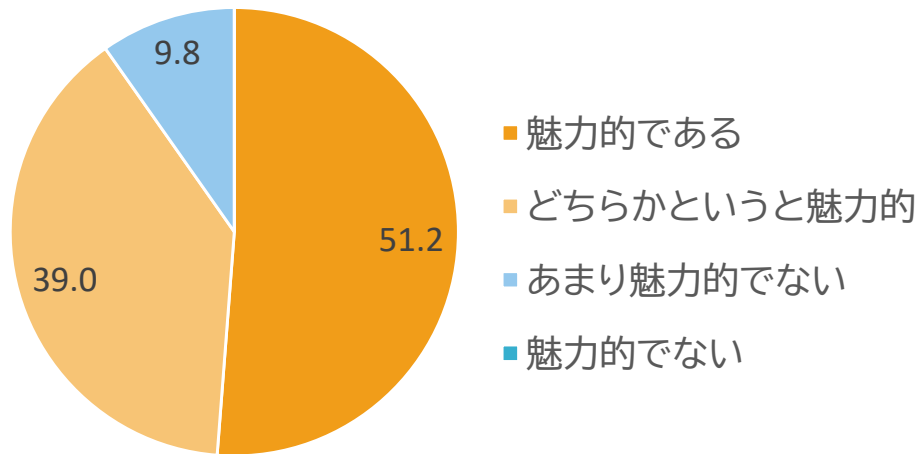
魅力的でない理由は農業の「きつい・大変なイメージ」

36



県立農業大学校に通う学生61名を対象に、職業としての農業に関するアンケート調査を実施した結果、41名(67%)から回答を得る

Q. 職業の選択肢として農業の魅力はどの程度ですか

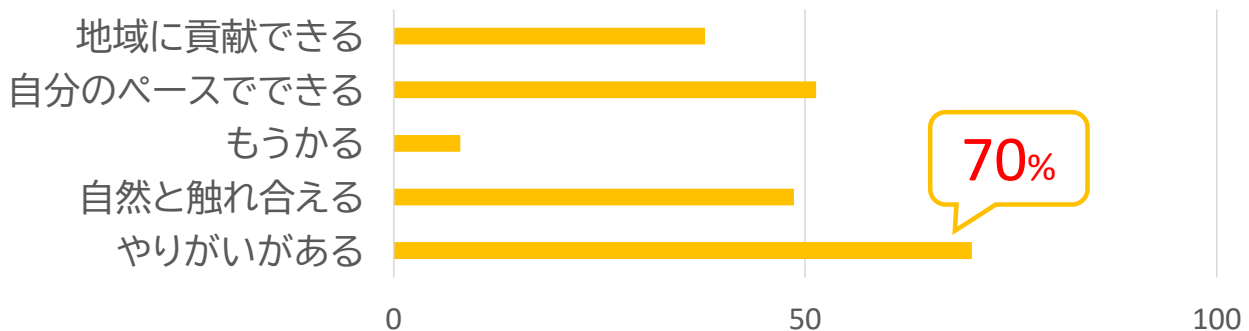


農業に魅力を感じる学生が90%を占める

37



Q. 農業が魅力的な理由は何ですか(複数選択) 37名



Q. 農業が魅力的でない理由は何ですか(複数選択) 4名



魅力的な理由は農業の「やりがい」

38



I 滋賀県農業・水産業基本計画について

II 次期 基本計画の策定について

III 地域別意見交換会について

IV アンケート結果について

V とりまとめの方向性(案)へのご意見について

目標
「どうなる」

目指す姿の 視点	目指す姿	ご意見等
人	農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。	
経済	滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。	
社会	多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。	
環境	気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。	

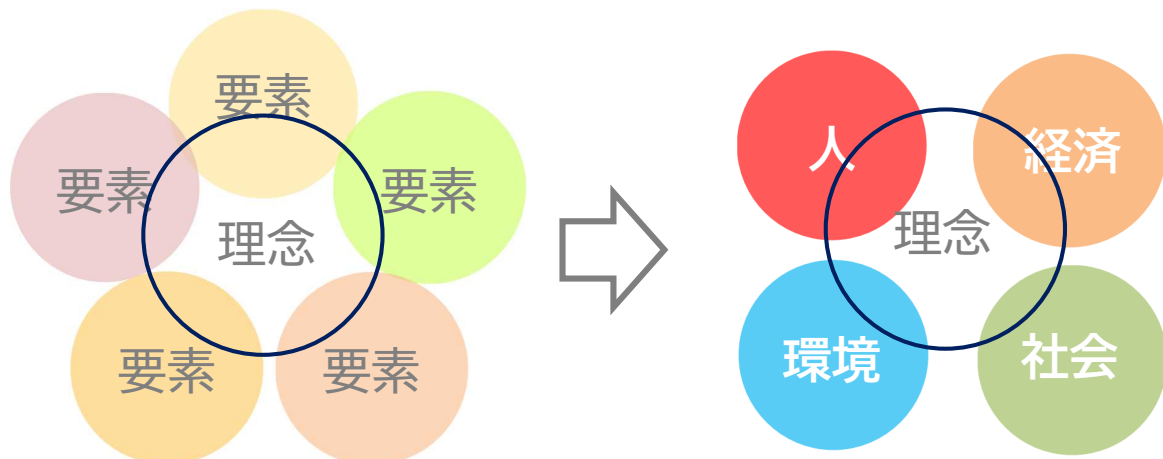
目指す姿の 視点	政策の方向性	ご意見等
人	(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する (3) 農業・水産業の魅力発信・販路拡大に取り組む	
経済	(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保する (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進める (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の向上に取り組む	
社会	(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋賀の農山漁村に関わる人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する	
環境	(1) 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む (3) 外部環境の変化から生じる自然災害などのリスクに対応する	

基本理念について

【基本理念の考え方】

理念…物事の根本に据える目標や思想(理想となる概念)

➡計画等の土台になっている基本的な考え方や価値観を示す



基本理念（案）

つながり、つづく、しがの農業・水産業



「生産者」どうしが協力し、
「生産者」と「流通・小売事業者」が、つながり
「流通・小売事業者」と「消費者」が、つながることで
本県農業・水産業が次世代へと引き継がれる。

世界農業遺産に認定された琵琶湖と共生する本県農業・水産業を次世代へ継承するためには、これまで以上に立場の異なる人々が協力し、つながることが重要であることから、「つながり、つづく、しがの農業・水産業」という基本理念を定め、施策を推進します。

基本理念（案）

つながり、つづく、しがの農業・水産業

地域別意見交換から



「つながり」に関わる言葉

○ワードクラウド分析 あるべき姿 **人**、**社会** での重要度が高いとされた用語

人 「増やす」、「支える」 **社会** 「関わる」、「かかわる」

○地域別意見交換からの意見（抜粋）

小規模から大規模農家まで支え合える環境づくり（大津・南部）

都市住民も交えた農業関係人口が増えている（大津・南部、湖東）

広域的な集落法人の（連携の）仕組みづくり（湖東）

農林水産業だけでなくすべての産業が手を携えていく（東近江）

食べたい人ー作ってくれる人のマッチングされ、継続できる（湖北）

「つづく」に関わる言葉

○ワードクラウド分析 あるべき姿 **経済**、**環境** での重要度が高いとされた用語

経済 「儲かる（経済的な持続性）」 **環境** 「引き継ぐ」

○地域別意見交換からの意見（抜粋）

個人経営の親から子への引継ぎ、経営者へのバトンタッチ（大津・南部）

次の世代にうまくバトンタッチ出来ている（甲賀）

従来からの農業・水産業が継承していける環境づくり（高島）